

# 赤岩かわら版

～第 8 号～ 赤岩かわら版編集局

## 大盛況！！

### 「ふれあい感謝祭」

9月5日(土)、重伝建「赤岩」ふれあい感謝祭・二百十日祭が晴天に恵まれ無事開催されました。世界遺産推進への意識を高め、赤岩の周知を図ることを目的にした、群馬県・六合村・10年後の赤岩を考える会共催による住民参加イベントは今年で2回目となり、JR「ぐるりん号」の参加者など400人ほどの人たちが、初秋を向かえた赤岩の里に集いました。

おかいこ部会は「どむろん家」で、座繰りや組ひもストラップ制作の体験講座。大人から子供まで、大勢の人たちが挑戦していました。子供たちが母親と一緒に、色とりどりの、世界に1つだけのストラップ作りに、真剣に取り組む姿が印象的でした。

食部会では、今回初めて赤岩の桑茶を使ったまんじゅう(みそ・つぶあん)やおにぎり(赤飯・きび)の販売を行い、300個は瞬く間に売れ切れしました。昭和二桁会による焼きトウモロコシとバーベキューの無料配布。汗だくになりながらの対応でした。例年がない長雨とその後の少雨での野菜高騰で、水車組合販売の100円野菜はアッという間に完売しました。

今年、初参加の六合村「文化を守る会」による「昔々の家」(安原義治さん宅)では、昔のおもちゃ遊びや赤岩に伝わる昔話の披露。遊びに夢中になっている子供の姿も懐かしく、独特の語り口調に皆さんじっと耳を傾けていました。

吾妻県民局、伝道師協会を始め、皆みなさま、本当にお世話になりました。



「ぐんまちゃん」の塗り絵、うまく描けたかな？



愛嬌も腕も、文句なし！？



長蛇の列の抽選会場。

# 重伝建「赤岩」ふれあい感謝祭に参加して

吾妻県民局 荒井道明



9月5日(土)、第2回重伝建「赤岩」ふれあい感謝祭が開催された。当日は村内の観光地をめぐる「ぐるりん吾妻号」や、長野原草津口～赤岩～花楽の里で「無料巡回バス」が運行され、マイカーでなくても山里を楽しむことができた。

私は午前10時からのオープニングに立ち会った後、「どむろん家」で座繰りあんどんと組ひもストラップ作りを体験した。また、メイン会場の「ふれあいん家」で、焼肉、焼トウモロコシ、桑茶入りの田舎まんじゅうをいただき、さらに集落内の民家で開催された昔語りでは地元の民話を静かに聞かせてもらった。

赤岩の魅力は、明治時代の代表産業である繭生産現場「遺構の地」であるということ、つまり、富岡製糸場のような「近代工場」ではなく、赤岩が住民の生活の場そのものであったということだ。養蚕は数少ない現金収入を生む産業で、特別な技術・経験、資本

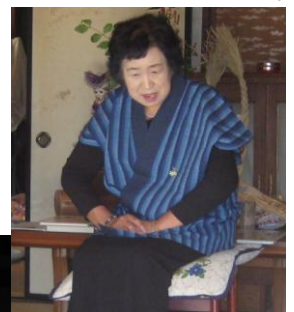
が必要であったわけではなく、こつこつ働けばお蚕さんはかならずそれに報いて増えてきた。今でも群馬の農村部には、蚕に桑をやったことがあるという人や、近所に繭を買い集めた商人がいたり、あるいは工場から繭を煮たにおいがしていたなど、生活や風景には、少なからず養蚕・製糸業を抜きにしては語れないところがあった。それが、ナイロン製品の出現や安価な中国産製品に席卷され、産業の中心から追いやられてしまった。

農家は敷地や家も広く、他の作物に転じても、養蚕道具を処分せずに納屋にしまっておけばそれですんだ。そのために、貴重な施設や道具がわずかでも残ったと言えるだろう。今、2階や物置に鎮座する不思議な道具が、何に使われたか知っている人が少なくなっている。その価値を認めない世代が当主になったら、処分されることは目に見えている。

赤岩地区には明治・大正から昭和期の建物、構築物、風景などが多数残っており、必ずその中には互助精神による農民の日々の営み、風俗、習慣、人情、人とのつながりなどがいっぱいあるはずである。その残されたものを、どのように掘り起こして世に出すか。懸命に生きてきた先代の生活を知ってもらうことが、今の赤岩を単に「建造物群保存地区」として見るか、「ひとびとの棲む集落」ととらえるかの分岐点でもある。

それにはまず、異なる人の目で地域をもう1度見直し、「他との違いはなにか」を見出すことだと思う。そこに隠されているのは、人のぬくもり、方言のやりとり、素朴な料理、農家の庭先や畑の風景、暮らしの知恵などだろう。赤岩には土蔵が数多くあり、興味がそそられる。今後の地区の発展を考える上で、養蚕道具だけでなく土蔵に収納された生活用具、家具や什器などを虫干してみたらどうだろうか。食器類などは慶弔の人寄せに使った優れたアンティークものがきっとあるはずだ。イベント開催時には縁側に並べ、周遊客に見てもらおうのだ。きっと意外なものに興味をそそがれ、質問が出るだろう。

食文化でも他と違ったところを味わってもらうのがよいのではないかと思う。いろいろで焼くイブくさいキビ餅などは、どこでも経験できるものではないし、野菜の加工・保存なども同様だ。ハード部門に力点を置いた施策から、そろそろソフト部門に磨きをかけるステップに来ているのかもしれない。



赤岩を訪れてすばらしいという人は、探していたルーツに似たものを直感的に探し当てた満足感で街に帰っていくのではないだろうか。そういうつもりで来たのだから、そうしてやるのが観光地として期待されるもっとも順当なあり方だろうと考えている。

\* \* \*

## 世界遺産チャリティーコンサートに参加して

関 久美子

5月末の公民館でのウクレレを習う会でウクレレを購入しました。代金を支払うために翌日「ふれあいん家」へ行くと篠崎洋子さんに会い、そこで「8月16日にチャリティーコンサートをするので来てね」と誘われ、軽いノリで「行けたらね」と返事をする。本当に行くことになってから暇を見つけてはウクレレの練習をするが、なかなかコードを覚えられない。「年のせいかな？」とつぶやく。

当日、朝5時半、六合村「文化を守る会」語り部会の山本茂さん、黒岩いちさん、市川美代子さん、安原キヌエさんと赤岩の義治さん、駒三郎さん、関2名の8名で出発、日曜日のため、高速道路も順調に走り、9時半に横浜市磯子区の杉田劇場に到着した。念入りにリハーサルを済ませ昼食にシュウマイ弁当をいただき、午後1時に開演となる。



1部ではギタリスト篠崎洋子さんの弾き語りによる、戦争を風化させないために愛と平和を願う気持ちを表した「音楽物語」。2部ではスライドによる横浜から蚕のふるさと群馬を訪ねた旅の記録「横浜・群馬・蚕」が繋ぐ「愛のシルクロード」。3部で、いよいよ登場です。黒岩いちさんによる昔話「カップに伝授された妙薬」。シーンと静かな場内の300人の人たちがいちさんの独特な語り口調に聴き入っていた。これは大好評でした。

駒三郎さん家が大きくスクリーンに写し出され、当時のまま大切に保存されている蚕室などを説明する駒三郎さんに、世界で1つしかない手作りの「おかいこちゃん」のぬいぐるみがプレゼントされた。義治さんは年齢を感じさせないハーモニカの音色で会場を魅了した。

さあー、ウクレレの出番です。私たちの後ろには洋子先生のお弟子さんたち「横浜ウクレレグループ」のみなさんが一緒に弾いてくださいました。緊張もあって練習の成果は出せませんでしたが、とて

も楽しく歌うことができました。横浜開港150周年の年に、歴史を大切にし世界遺産候補地として今後の発展が期待される「赤岩」を、横浜から応援するために情熱を注いでくださる篠崎洋子さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

「こころの赤岩」の歌を通じて、横浜市民と交流できたことはとても有意義でした。

みなさん、芸術の秋です。ウクレレを弾きながら楽しく歌いませんか。



### ■来訪者情報

|                   |     |                    |     |
|-------------------|-----|--------------------|-----|
| 9/3(木) 群馬県庁都市計画課  | 3名  | 9/7(月) 神奈川県鈴木様     | 2名  |
| 10/4(日) 中之条町経済産業課 | 27名 | 10/9(金) 埼玉県所沢市岩堀様  | 14名 |
| 10/28(水) 群馬県庁     | 40名 | 11/12(木) 中之条町教育委員会 | 20名 |

### ■編集後記

山々の木々が色づき始め、秋の気配がいつそう濃く感じられる時期となってきた。秋といえばキノコの季節。今年の夏は少雨のためか、きのことり名人に聞くと例年になく収穫が少ないと嘆いていた。価格も高値だそう。紅葉狩りの時期になり、おかいこの里赤岩の山々は、今年はどうな色で観光客を迎えてくれるだろうか…(局)